

会議録

会議名称	令和7年度 第3回愛西市行政改革推進委員会	
開催日時	令和8年1月30日（金） 午後2時から午後3時15分まで	
開催場所	愛西市役所 北館3階 災害対策本部兼会議室1, 2	
出席者	別紙のとおり	
欠席者	大倉 菜々子、服部 磯和	
公開・非公開	公開	
傍聴人の数	0人	
審議事項等	<p>●審議事項</p> <p>(1) 第3回愛西市行政改革推進委員会付議事項について</p>	
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 第4次愛西市行政改革大綱（案） ・資料2 中長期財政計画 ・資料3 第1次～第3次大綱取組内容 ・資料4 外郭団体補助金額の推移 ・資料5 行政改革効果額 	
審議経過	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 定		
確 定 年 月 日	署 名	
令和8年 2月 18日	署名委員 後藤 理夫	

愛西市行政改革推進委員会委員

役 職	氏 名	備 考
会長	千頭 聡	
副会長	加藤 洋平	
	住田 宣子	
	水越 悟	
	横井 研二	
	山田 倫典	
	平野 伸弥	
	神田 倫代	
	鈴木 幸子	
	稲垣 万貴子	
	大倉 菜々子	欠席
	大橋 理絵	
	後藤 理夫	
	佐藤 輝彦	
	服部 磯和	欠席

職務のために出席した職員

役 職	氏 名	備 考
市長	日永 貴章	答申後退席
副市長	清水 栄利子	
教育長	河野 正輝	
総務部長	井戸田 悦孝	
市民協働部長	山岸 忠則	
保険福祉部長	田口 貴敏	
保険福祉部参事	青井 優	
健康子ども部長	人見 英樹	
産業建設部長	宮川 昌和	
産業建設部参事	小原 智宏	
上下水道部長	山田 英穂	
教育部長	佐藤 博之	
消防署長	伊藤 政儀	
総務課長	伊藤 靖幸	
人事課長	加藤 貴也	
財政課長	堀田 毅	

事務局

役 職	氏 名	備 考
企画政策部長	西川 稔	
企画政策部参事	大森 知孝	
企画政策部経営企画課長	渡邊 典夫	
企画政策部経営企画課課長補佐	若松 孝志	
企画政策部経営企画課主事	青木 智史	

	<p>た額として過不足額を示しています。</p> <p>過不足額はすべてマイナス表示となっており、不足分は財政調整基金を充当することになります。財政調整基金の残高は下の欄に記載しています。</p> <p>財源不足については今後歳出削減努力によって解消を図っていくものと考えています。</p>
会長	<p>今の説明にご意見、ご質問はありますか。</p>
委員	<p>平成22年度から令和4年度までの決算に関する資料を配布しました。平成22年度から令和4年度までは毎年黒字となっているにもかかわらず、今回示された中長期財政計画ではずっと赤字になるというのはなぜなのか追求が必要だと思います。</p> <p>また、令和9年度、10年度の歳入で市債が令和8年度より多くなっており、歳出も令和9年度、10年度で増えている。何か計画があるのですか。</p>
職員	<p>令和4年以前の数値は決算値となっており、決算における歳入は財政調整基金をはじめとする各種基金を取り崩した額を含んでいます。</p> <p>今回お示した中長期財政計画では財政状況を明確にするためあえて過不足額という形で記載しています。</p> <p>令和9年度、10年度の増加については現在令和8年度予算が議会上程前ということ、現在検討中であることから詳細は回答を控えますが、必要な事業について歳出及び歳入の変化があるため数値が上がっています。</p>
委員	<p>決算で合わせようとするときには財政調整基金で賄うという解釈でいいですか。</p>
職員	<p>近年であれば毎年財政調整基金や公共事業整備基金を取り崩しており、総額も減少しています。</p>
委員	<p>基金を取り崩す前提で予算を組んでいくのはいつから始まったのですか。</p>
職員	<p>財政調整基金は平成28年度をピークに減少を続けており、基金総額は令和4年度をピークに減少している。不足する財源に充てているという状況です。</p>
委員	<p>予算を組む時には持っている金額の中でどのように事業を組めば赤字にならないかという考え方が普通だと思う。最初から基金を使って帳尻を合わせるような予算の組み方はどうかと思います。</p>

会長	民間会社と、公共的なサービスを義務的にしなければならない行政との違いもあるように思います。
職員	<p>財政調整基金をはじめとする基金に依存している状況であり、本市の維持継続という観点からは改善すべき課題であると認識しています。</p> <p>一方で、経常収支比率は高い数値となっており、財政の硬直化が進んでいます。昨今の物価上昇や人件費の高騰による影響も要因の一つであると考えています。</p> <p>これに対して行財政改革の推進、自主財源の確保、歳出の抑制を徹底的に進めて改善に取り組んでいきたいと考えています。</p>
委員	現在マイナスが出ているという現実があるのに財政硬直化を何とかするという回答は論点がずれていませんか。
会長	愛西市だけでなく日本の多くの市町村では財政の硬直化が進んでいる状況です。民間会社であれば赤字だから何かを減らすという動きがしやすいが、行政サービスをやめるとは言えないというのが行政の大変なところであり、それを基金の取り崩しでしのいできたがこのままではいけない。同時に合併特例債の活用もできなくなり、改めて厳しさを共有したいというのが思いでしょうか。
職員	経常収支比率についてお話した通り、義務的経費によって自由になる予算が圧迫されている状況です。施設の老朽化やサービスの維持向上といった課題がある中で地方債や補助金等財源の確保をし、歳出の平準化等の対応をとりつつ行財政改革によって更なる安定を図りたいという考えです。
会長	すでに投資的経費が11億円になっており、非常に厳しい現実だと思います。
副会長	財政調整基金が減っていくのは義務的経費がある以上仕方ないところだと思います。大切なことはこういった現状を市民と共有しながら限られた資源をどう活用していくかということを議論していくことだと思います。
会長	<p>愛西市は第3次総合計画を策定中であり、原案には資料2と同様の財政見通しのデータを掲載しています。</p> <p>これは財政の厳しさを広く市民と共有して一緒になって取り組んでいくという姿勢の表れでもあります。</p>
委員	今まで歳出を増やす施策はどのようにしてきたのでしょうか。日本全体で人口が減っていくでしょうが、愛西市だけ増えるという政策があってもいいのではないのでしょうか。歳入が増えるような政策を大々的にとるとい

職員	<p>うことを考えたことはありますか。</p> <p>財源の確保に関して、ふるさと納税はポータルサイトを活用して増加の手立てをとっています。また、南河田町や西條町など企業誘致の計画を推進し、固定資産税や雇用による住民税の増収につながるような施策を進めています。</p>
委員	<p>それはどの市でも考えられることであって、もっと人口を増やして市税を増やすということを根本に据えるべきです。</p> <p>現在の愛西市は市街化区域が5%にとどまっており、人が増えるはずがないように思います。佐織や佐屋の駅近くの区画整理を見直して市街化調整区域から外し、市街化区域を増やして人を呼び込むような策をなぜ取れないのでしょうか。</p> <p>市民として人口が増えて地域が活性化することは喜ばしいことで、大胆に市税が減るようなことを考えていただきたい。</p>
委員	<p>津島市が藤浪駅の南の市街化調整区域を市街化区域にする方針を出しています。愛西市も藤浪駅の南あるいは西側について藤浪の活性事業を早急に進めた方がいいと思います。</p> <p>永和駅の近辺も市街化区域に調整すれば駅周辺の開発も進んでいくと思います。企業団地ばかりでなく長期的な定住区域を作っていくやり方をして人口を増やさなければならないです。</p> <p>美和や七宝などで住宅を探している人もたくさんいます。そういったことを含めて開発を考えてください。</p>
委員	<p>私は市から補助金をもらっている団体に所属しています。</p> <p>補助金について減額されると聞いていますが、協力していきたいと思っています。ただ、周知など説明をしていただいて納得いくような経費削減をお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>令和8年の自主財源が18億円、それ以降は約15億円と令和8年度のみ高いようですが何を見込んでいますか。</p>
職員	<p>令和8年度に限って前年度からの繰越金を見込んでいます。</p>
会長	<p>市街化区域を増やすことで人口が増えないかのご意見がありました。しかし、愛西市に住んでいただくためには魅力がないといけないので一定の都市整備が入り、財源も必要です。それを前提として都市計画マスタープランとして検討していると思いますが、どのようになっていますか。</p>
職員	<p>市街地整備の事業を立ち上げました。愛西市にある8駅を中心とした整</p>

	<p>備をしていこうという考えで、現在4駅に絞ったところです。今後は地域の方とお話をしながら土地区画整備という形を含む様々な方法で市街地を拡大していきたいと考えています。</p>
会長	<p>第3次総合計画の中では駅を中心に都市拠点を設定し都市的な集積を高めて人を呼び込むことを計画しています。</p>
委員	<p>財政調整基金はおよそ2億円ずつ減少を続けていき、令和17年度や18年度にはなくなると思いますが、どうされるのですか。</p>
職員	<p>資料は令和8年度から増減率を見込んで試算したものです。これに対して行財政改革、歳入の増加と歳出の抑制などにより財政調整基金の減少の解消に努めていく考えです。実際の財政調整基金の残高がどのくらい減っているのか、もしくは増えているかということを行財政改革の成果と捉えていただきたいと思ひます。</p>
委員	<p>財政調整基金はいくらくらい持つ考えですか。</p> <p>愛西市の標準財政規模は155億円程度であり、およそ10%から15%くらいの額がどの団体でも持っている額で、15億円くらいとなる。そうすると令和12年の14億円が最終的な限度であり、この数字にとどめなければいけないと思ひます。</p> <p>今は災害がないですが、災害があったときにどう補填するかなども考えなければいけません。愛西市としても備えが必要です。</p>
会長	<p>この資料は推移の予測を現時点でしたものです。</p> <p>こういった資料はなかなか総合計画に載せようとするものではなく、こうならないように市民と行政とで知恵を出し合おうという意味で、放っておいてはいけないという意味であると思ひます。</p> <p>そのままにはしない、こうならないようにするという回答でしたので、委員としてもご協力をお願いします。</p>
職員	<p>行政改革プランに令和11年度末の財政調整基金残高目標額を23億円としています。</p>
会長	<p>危機感の共有は様々なチャンネルで伝えていただき、前向きな議論でこの予測にならないようにしていただければと思ひます。</p>
会長	<p>資料3, 4, 5について説明をお願いします</p>
事務局	<p>〈資料3, 4, 5に沿って説明〉</p>

委員	<p>さかのぼる形となりますが、資料1の中で18ページに推進事項3効率的な行政運営とありますが、5番目にある補助金、委託料の適正化は17ページの推進事項1に含めた方がいいように思います。</p>
委員	<p>資料4で、土地改良区への補助金額が際立って増えています、どのような内容でしょうか。</p>
職員	<p>土地改良区に勤務する職員の人件費と、市全体の農地や水路、農道の整備のために補助を出しています。</p> <p>事業費の補助は年ごとに事業量が変わるため多少の増減があります。人件費の高騰があり苦しい状況です。</p>
委員	<p>名古屋から14kmの距離にあって毎年億単位のお金を使って田んぼの整備をするというのは考え直してはどうですか。</p>
職員	<p>例えば水路の工事などは農業用のものではありませんが、本市は海拔ゼロメートル地帯にあり、地内の水を農業用の水路や排水機場によって排出しており、農家の方以外にも間接的に関わるものです。</p> <p>市街化区域が5%しかないことについては認識をしており、現在は土地区画整備によって市街地をひろげる取組をしています。市街化調整区域はすぐに市街化区域になるものではなく、手順を踏んで進めていく考えです。</p>
会長	<p>では、進行を事務局へお返しします。</p>
事務局	<p>皆さまにご尽力いただき、行政改革大綱を形とすることができました。</p> <p>今後はこの大綱が形骸化しないよう、今までいただいた意見を精一杯受け止め、取組をしていきたいと考えます。</p> <p>委員の皆さまは今年度をもって任期を迎えますが、来年度の委員改選に向け、各団体には年度が替わってから委員選任の依頼をいたします。</p> <p>大変厳しい財政状況、社会状況ではありますが、この大綱を基に取組みを進めていきますので進捗状況や取組内容などご意見、御要望をいただければと思います。</p> <p>最後に、ご多忙な中、行政改革大綱策定にご尽力いただきありがとうございました。</p> <p>これをもって委員会を終了いたします。</p>

欠席の大倉 菜々子委員、服部 磯和委員については、会議録を送付し、会議の内容を共有します。